

6.21 総会・懇親会

西南ってよかろうもん！



チケットにつきましては、各学年の代表にお問い合わせくださるか、同封の振込用紙でお振込下さい。また、総会当日も各学年受付にて販売しております。

西南学院高校平成 20 年度総会・懇親会

日時：平成 20 年 6 月 21 日（土）
18：30～（受付開始：17：30）
学年別に受付を準備しております）

場所：ホテルニューオータニ博多

総会チケット：7,000 円

（平成 15 年以降の卒業生は 2,000 円）

多くの同窓生の参加をお待ちしております！

今年度当番幹事挨拶

2008 年度西南学院高等学校同窓会総会当番幹事「西集会（さいしゅうかい）」の代表幹事をさせて頂いております植木秀樹と申します。私共昭和 63 年卒は、昭和最後の学年であり、「昭和の最終回」と「同級生よ、西南にもう一度集まろう！」との思いをかけて西集会と命名し、総会に向け日々頑張っております。

本年度のテーマは、「西南ってよかろうもん！」です。西南の卒業生であることに誇りと感謝を感じながら、西南の校風のように自由でおおらかに、もう一度学生時代に帰って総会を作りたい。そんな思いを込めました。そして、総会当日は出席者のみならず、福岡を離れ全国でご活躍の卒業生が、母校への郷愁に浸れるよう博多弁で表現いたしました。

現在、多くの諸先輩方に支えられて、着々と準備が進んでおります。初めは小さかった同級生の輪も、次第に大きなものになってきました。我々、西集会は総会に向け邁進して参ります。6 月 21 日は、多くの先輩方や後輩方とお会いできることを心よりお待ちしております。当日のご出席を賜りますよう、ご案内申し上げます。

平成 20 年度同窓会総会当番幹事「西集会」
代表幹事 植木 秀樹(昭和 63 年卒)

同窓会会長挨拶

春暖の候、同窓生の皆様はますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年も高校同窓会独自の広報誌が、より充実した内容で皆様のもとに届けられる事を嬉しく思っております。発行にあたり、広報委員会の皆様に尽力いただきましたことに感謝いたします。

同窓生の皆様には、高校同窓会 web サイトでの情報提供に止まらず、広報誌での情報発信を行うことによって、同窓会が皆様にとって更に身近なものになっていることと確信しております。一人でも多くの同窓生に読んでいただき、同窓会の目的・活動内容・将来像等をご理解いただければ幸いです。

最後に今年も 6 月 21 日（土）に開催される同窓会総会へ多数のご参加を心よりお待ちしております。

同窓会会長 志岐 司(昭和 39 年卒)

青島の空に日の丸を！

頑張れ！上野太郎 (H11卒) 君

北京オリンピック ヨット競技(470級) 日本代表！



同窓生からオリンピック選手の誕生です。平成11年卒業の上野太郎君が今年夏開催の北京五輪ヨット競技日本代表に選ばれました。同窓生のオリンピック出場は初めてのことです。

モスクワ五輪でも同窓生(三船和馬(S45卒))から日本代表が出ましたが、この大会は日本が不参加でしたので出場は今回が初となります。

上野太郎君 北京五輪壮行会

日時:平成20年6月28日(土)18:00~

場所:西南クロスプラザ
(旧西南高校跡)

詳しくは、ヨット部ホームページをご覧ください。

<http://fukuhaku.ddo.jp/sailing/seinann/>



平成十一年に西南学院高校を卒業しました上野太郎です。この度、今年8月に中国で開催される「北京オリンピック」に、日本代表として出場する事が内定しました。種目は「ヨット」で、正式名称は「セーリング・470級」です。西南高校在学時代はヨット部に在籍し、3年間活動を続けました。しかし、満足な結果が出せず3年の夏で引退。その悔しい思いが大学(同志社大学)での体育会ヨット部入部、そしてオリンピックを目指す事に繋がりました。オリンピックを目指し始めてから、ヨットに専念する為会社を退職。時間は出来ましたが、生活費も活動費も遠征費も無い。苦難の連続でしたが、今の達成感は抜群です！

しかしここで気を緩めず、本番でメダルを獲得できるように、これからも精進して参ります。今後、も宜しくお願いします。

上野太郎君は平成8年春にヨット部に入部した。最初の印象は大きな体でいつもにこにこして、憎めないやんちゃ坊主という雰囲気の高校生であった。

自宅が八幡西区で遠距離通学であったため、部活動が続けるのはかなり無理な環境であったが、彼は最後までヨット部でがんばり続けた。

部活が終了するのは、夏場は夜10時くらい、冬場でも9時になることは珍しくもなく、恐らく自宅に到着するのは深夜という日も珍しくなかった筈である。それでも部活を辞めなかった。とにかくにこにこしながら頑張るのが上野流であった。

上野君は高校時代、インターハイにも出場していない。高校時代の上野君は決して一流ではなかった。それがオリンピック選手になったのであるから、継続して努力することの重要性を彼によって再確認させられた。

北京では西南スピリットを発揮し活躍してくれることを期待している。

西南学院高校ヨット部前顧問 山口尚和

1月26日、何気なく見ていた着信メールに驚くべきニュースを発見。「西南高校ヨット部出身の上野太郎選手ペア、北京オリンピックへの出場権獲得が決まりました」との朗報。「エッ！スゴイ」と仰天いたしました。何の前触れもなく飛び込んできたビッグニュースに驚きと感激に震える思いでした。「でかした、大手柄」であります。

西南高校ヨット部は昭和26年創部以来、多くの名選手を生んでいます。古くは、東京オリンピック候補強化選手にまでなられた庄崎義雄氏(昭34年卒)、モスクワオリンピックの代表選手に選ばれつつも、日本がボイコットしたため出場できなかった三船和馬氏(昭45年卒)がいらっしゃいます。

ヨットレース会場となる青島は、中国山東半島南海岸にあります。上野選手が青島で大活躍することをおおいに期待しております。我々も上野選手の活躍の励ましになればとできる限りの応援、支援をしたいと思います。青島の空に日の丸を！上野太郎がんばれ！

ノータスクラブ(OB・OG会)会長 藤島 靖

【同窓生紹介】(各界でご活躍中の同窓生を紹介します)



昭和40年西南大商学部卒、同年西日本新聞社入社、地方、本社、東京勤務などを経て平成2年人事部長、9年制作局長、10年取締役、13年常務取締役、15年専務取締役社長室長、19年西日本新聞印刷代表取締役社長

岩崎 文正 (昭和三六年卒)

西日本新聞印刷株 代表取締役社長

「天落つるとも・・・」

昨年十一月、卒業以来、実に四十六年ぶりに母校の土を踏んだ。校歌の中の「紺碧の波」は遙か遠くになったが、「松の緑」はまだ残り、あの赤レンガ積み目のシンボリックな講堂も、風雪に耐えていた。キリスト教教育が醸し出す「清澄」「謹厳」ともいっべき西南特有の空気が、講堂を中核として変わらずそこにあった。身が引き締まる思いというか、恩師の一喝を浴びたというか、そんな厳肅な気持ちでしばしその空間に立ち尽くしていた。

一喝といえば、絶対に忘れられない言葉がある。覚えておられる同窓の方もあろうと思うが、それは大きな横長の額に墨書された「天落つるとも正義行わるべし」という教示だ。これほど一切の逃げやごまかしを許さない言葉があるだろうか。その額がいまどこに掛けてあるのか知らないが、この十三文字は卒業してからもずっと、私の脳天で不治の耳鳴りのように響き続けていて、重要な判断決断のたびに、私に心の傾きの修正を迫ってくる。強制力を持って、畏怖せしめるに十分な迫力を持って。結果がどうであったか、ここでは述べないが、この世の中、古女房のほかに一つくらい怖いものがあつた方がいいと観念するほかないのだらう。



高校卒業後、福島音楽事務所を経て独立。現在、福岡を拠点に九州各地で作曲や演奏活動に活躍中。数千曲の舞台音楽、合唱曲を発表。

宮崎 漢生 (昭和五五年卒)

みやざき音楽制作舎代表・ミュージカル作家

数千曲の舞台音楽・合唱曲を発表

高校時代は吹奏楽部に所属し、全国大会出場を果たしました。卒業後、中村八大・宮川秦門下の福島新一氏に師事し、東京にある福島音楽事務所で修行をした後、独立しました。今は、福岡を拠点として、九州各地で活動しています。

これまでに、ドーム級のイベントから一人芝居まで約百本の新作舞台脚本と数千曲の舞台音楽、合唱曲を発表してきました。

二〇〇五年に作曲し、東京公演を行った「LOVE」生きていることとする力」というミュージカルでは、月刊ミュージカル誌にて、「九州発の音楽性の高い作品」との評価を受け、年間ベストミュージカルにノミネートされました。

また、学校教育で鑑賞される作品も手がけており、九州各地の市民劇団や合唱団の作品の制作にも多数関わっております。そのほか、民族楽器の分野で、中国より来日された国家第一級演奏家「胡趙国良氏と共に演奏活動を行なっています。



平成3年卒業、平成7年帝京大学社会学科卒業、同年宇都宮にあるレオン自動機株入社。平成12年家業を継ぐため大牟田へ戻る。現在、常務取締役として主力商品「草木饅頭」を明太子、ラーメンに次ぐ福岡の名物とすべく奮闘中。

黒田 崇 (平成三年卒)

株式会社総本家黒田家 常務取締役

草木饅頭を明太子・ラーメンに次ぐ名物に

高校時代、マスコミ志望だった私は東京の大学と大阪の大学のどちらに進むかで悩んでいました。そんな時に、「一足早く東京の大学に決めていた同級生から、「お前も東京に来んや?」と言われ、あっさり東京の大学を選びました。

大学時代は、車に興味を持ち、どつやつたらいい車に乗れるかというようなことを考えていました。そんな時に、「バイト先の先輩から、「自分とこの家業を継げばいいんだよ!」と言われ、これまたあっさり実家の家業を継ぐことを決意しました。

大学卒業後、5年間のサラリーマン生活を経て、大牟田へ戻りました。私の会社は創業大正3年、初代黒田辰治が考案した秘伝の蒸し饅頭「草木饅頭」を主力商品とした饅頭屋です。平成元年に全国菓子大博覧会で「総理大臣賞」を受賞しました。

今では大牟田に限らず、福岡市内でも福岡三越地下2階、J&博多駅キヨスク、福岡空港第2ターミナルで販売しています。見かけた方は是非買ってください。

旧チャペルと新チャペル

西南の卒業生にとって、やはりチャペルは特別な存在です。今は大学博物館となった旧チャペルの油の臭いと中央部が凹んだ階段は、今でも覚えているし、当時を思い出させてくれます。このチャペル、建築物としてもかなり価値のあるものなのです。

一方、新チャペルはこれから西南の歴史を育ててくれるであろうこれまたステキなチャペルです。ここに、新旧チャペルを紹介します。懐かしさと新しさとともに母校を思い出してください。

(協力) 西南学院大学企画広報課



1921年(大正10年)完成。2003年3月まで校長室、事務室、講堂として使用。
2001年「福岡市都市景観賞」受賞
2004年「福岡市有形文化財」「保存建築物」に指定
2006年より西南学院大学博物館として開放



新チャペル外観。2003年1月竣工。旧チャペルを踏襲する形で造られた2階建て。設計は鹿島建設。座席は1・2階合わせて740席ある。



旧チャペル内部。ここにあった椅子は、現在、現校舎の廊下に置かれている。



設計者
W・M・ウオールズ



ジョージアンコロニアルスタイルと呼ばれる建築様式。改修により煙突が復活。



内装のレンガ積み工法は「オンダ積み」(4年1次積み)の型取りされる工法で、レンガの隅い面と凹い面が一致するように交互に積み上げられています。

もともと西南学院中学・高校の本館として建てられたチャペル。その設計者は数多くのキリスト教関連施設の設計に携わったヴォーリス氏。創立者C・K・ドージャーと懇意であったことが縁のようです。その後、講堂として使われるようになり、私も卒業生にと



新チャペル内部。正面に「Seinan, Be True To Christ」と英字で書かれている。

< 編集後記 >

今回の会報は、多くの方のご協力をいただきました。上野君についてはヨット部OB・OG会である「ノータスクラブ」に、同窓生紹介では同窓会情報委員会に、新旧チャペル紹介では、同窓会母校連携委員会にご協力いただきました。こうして、同窓会全体で作り上げる会報を充実させていきたいところです。そのためにも資金が必要です。ホームページ広告もよろしくお願いします。(広報委員長)

高校を卒業して、早10年が経ちました。その間、同窓会などの活動を通じ、母校の偉大さや歴史を知ることができました。そして少しずつ「感謝」の気持ちが湧いてきました。今回、同窓会会報製作の一員になり、少しは母校へ恩返しができたと考えています。これからますます母校共々同窓会も発展し、盛大になるよう、微力ながら担えればと思います。(ふ)

同窓会ホームページに広告を出しませんか!

同窓会では、ホームページに掲載する広告を募集しています。いろんな分野で活躍する同窓生の紹介を行なうとともに、今後の同窓会広報活動を充実させる資金づくりを行ないたいと考えています。

掲載料は年間5千円です。ぜひ、ご協力ください。詳しくは、ホームページ (<http://www.swhob.net>) の広告募集をご覧ください。